

段ボール使いアート

南三陸の観洋で作品展

南三陸町志津川の南三陸ホテル観洋で、福島県郡山市のアートイラスト遠藤昭三さんによる「ダンボールアート展」が開かれている。

遠藤さんは、東日本大震災による福島第一原発事故で当時住んでいた富岡町を追われ、郡山市で避難所生活をしていた。その時の間、仕切りが段ボール箱。長引く避難所生活で、

いらだちから、間仕切りが高いなどと怒鳴られたりしたという。「段ボールに絵を描くことで高さも気にならなくなる。避難所の雰囲気と、絵を描き、切り貼りをすることが好評となり、段ボールアートが生まれた。

「段ボールに絵を描くことで高さも気にならなくなる。避難所の雰囲気と、絵を描き、切り貼りをすることが好評となり、段ボールアートが生まれた。」

サクラ、ハス、モミジなどの四季折々の花々、卒業式や夏まつりなどの年中行事などをカラフルに描いた作品。花びらや動物などのイラストは段ボールを切り貼りしている。縦90センチ、横120センチの大きい作品から33センチ四方の作品まで20点が展

示されている。訪れた人は「本当に段ボールで作っているの」などと口々に。志津川の遠藤水華里さんは「段ボールで作った作品とは思えない。花びら1枚も段ボールで作っており作品の立体感が何ともいえない迫力がある」と話した。

4日、気仙沼

展示会は4日まで。最終日の4日は午後2時30分から遠藤さんのワークショップがある。小学生から中学生が対象で参加無料。当日受け付けるが、定員の15人になり次第締め切る。問い合わせは同ホテル（電話46・2442）まで。

県合庁の直売会

地場製品の消費拡大を目的に、毎月第1金曜日「地場産品生産者応援の日」として開いている。今月は、気仙沼市の直売所「みのり市」が販売を担当する。



段ボールで作った作品に見入る来場者